

令和7年度 きゅうり 技術情報 No. 8 ～土壌pHの改良と土壌病害虫対策～



- Point** ①土壌pHは肥料の効き方に影響するため、最適pH6.0～6.5程度に改良しましょう。
- ②前作で土壌病害虫が発生したほ場では、作付前、作付後にできる対策をとり、次作での被害低減につなげましょう。

1 土壌pHの改良

- 近年、土壌pHの低下が散見されます。

原因①石灰質資材やたい肥の施用量の減少

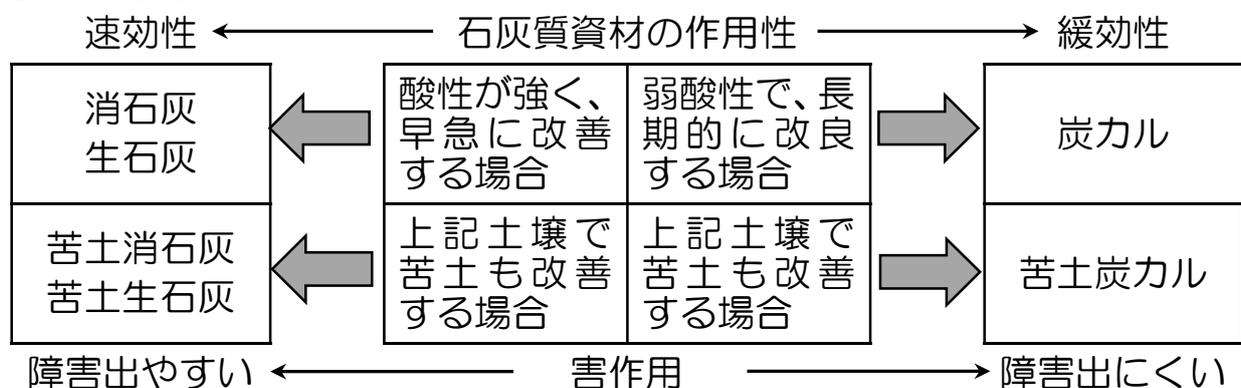
原因②窒素の多施肥で残存した硝酸態窒素による石灰、苦土の溶脱助長

原因③深耕など排水対策に伴う塩基類の溶脱助長

- 土壌pHは肥料の効き方に影響するため、最適pH6.0～6.5程度に改良しましょう。

低 pH	欠乏症	必須要素：リン酸、石灰 微量元素：モリブデン
	過剰症	微量元素：鉄、マンガン、銅、亜鉛
	その他	pH4.0以下では根に障害：アルミニウム
高 pH	欠乏症	微量元素：鉄、マンガン、銅、亜鉛、ホウ素

- 土壌pHが低い場合は、石灰質資材を施用します。ただし、ハウス等でECが高くpHが低い場合は、窒素肥料の過剰が原因となっていますので、石灰質資材の施用ではなく、クリーニングクロープ等により過剰な養分を減らす必要があります。



※消石灰、生石灰を使用する場合は、施用後最低でも7～10日後に植付を行うようにしましょう。

2 土壌病害虫対策

(1) ホモプシス根腐病

- 収穫開始から8月にかけて発生が多くなります。収穫初期では、日中に葉が萎れ、夕方に回復します。萎れと回復を繰り返すうちに、徐々に下葉から枯れ上がります。（高温年は発生が少ないです。）
- 汚染圃場の土が人や機械を介して移動し伝染します。靴カバー装着や農機具洗浄を徹底し、病原菌の拡大防止に努めましょう。
- 対策は、以下のとおりです。

①きゅうり栽培の基本管理徹底

排水対策・初期の活着促進、根張りを促す管理

②土壌消毒（前年の萎れ割合が10%以上）

クロルピクリンくん蒸剤による畝内土壌消毒

③土壌 pH の改良（前年の萎れ割合が10%未満）

pH7.5 を目標に転炉スラグを処理



日中は葉が萎れる



病気が進行し、枯れた株

写真1 ホモプシス根腐病が発生したほ場



感染初期（細根脱落部が褐変）



感染末期（黒色の偽子座が形成）

写真2 ホモプシス根腐病の根の病徴

(2) ネコブセンチュウ

- 寄主範囲が広く、きゅうりを含むウリ科作物やナス科作物のほか、根菜類に好んで寄生します。
- 寄生された根は、無数のこぶができ、養分吸収が阻害されます。そのため、地上部は萎れ、収量が低下し、ひどくなると枯死します。
- 防除対策は以下のとおりです。

①殺センチュウ剤の使用

クロルピクリンくん蒸剤、イミシアホス粒剤等

②対抗植物の活用

クロタリア、ギニアグラス、スーダングラス、ソルゴーなど

③熱利用による土壌消毒

当地域では栽培終了後に行うことは難しいですが…



写真3 ネコブセンチュウによる被害

※本資料は令和8年1月31日の農薬登録情報に基づいて作成しています。農薬の使用は農薬の使用は、必ず容器のラベルで使用基準（適用作物、単位面積当たりの使用量や希釈倍数、使用時期、有効成分の種類ごとの総使用回数）や注意事項を確認し、農薬使用者が責任を持って使用してください。

◆いわてアグリベンチャーネット URL：<https://www.pref.iwate.jp/agri/i-agri/>
岩手県内の、農業技術情報や病害虫に関する情報、各地域の情報など盛りだくさんです。
ぜひご覧ください！！

◆山火事防止に努めましょう

2月から5月は、降水量が少なく空気が乾燥し、強風が吹くという、火災が発生しやすい気象条件となります。

野焼きやたき火は消防署に届け出、火入れは市町村長の許可が必要と定められています。事前に天候を確認し、消火用の水などを準備した上で、条例等で定められた人数以上で行うなどし、消防署・市町村の指示に従ってください。